

韓国の落葉果実事情(ナシ)

米農務省GAINレポート 2024年11月6日

これは米農務省海外農業局ソウル事務所(韓国)が作成した「落葉果実年次報告書」の一部を翻訳したものであり、米政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

概要

韓国の2024/25販売年度(年度)のナシの生産量は、前年比べて低い病害虫発生率と好天に支えられ、10.2%増の20万2千トンと予測される。この生産量は過去5年間の平均に近く、天候上の問題(熱波、熱帯夜等)により引き起こされた日焼け、裂果、果実の小玉化により、さらなる収量の回復は妨げられた。生鮮果実の価格は2024年の大半を通じて高止まりしていたが、ナシやその他の国産果実の収穫が始まって以降は安定している。輸出量は、主に生産量の増加により33%増の2万5千トンに達すると見込まれる。

2023/24年度(2023年)の生産量については、2023年を通しての悪天候による収量減少の全容を裏付ける公式データに基づき、18万3,300トンに下方修正した。

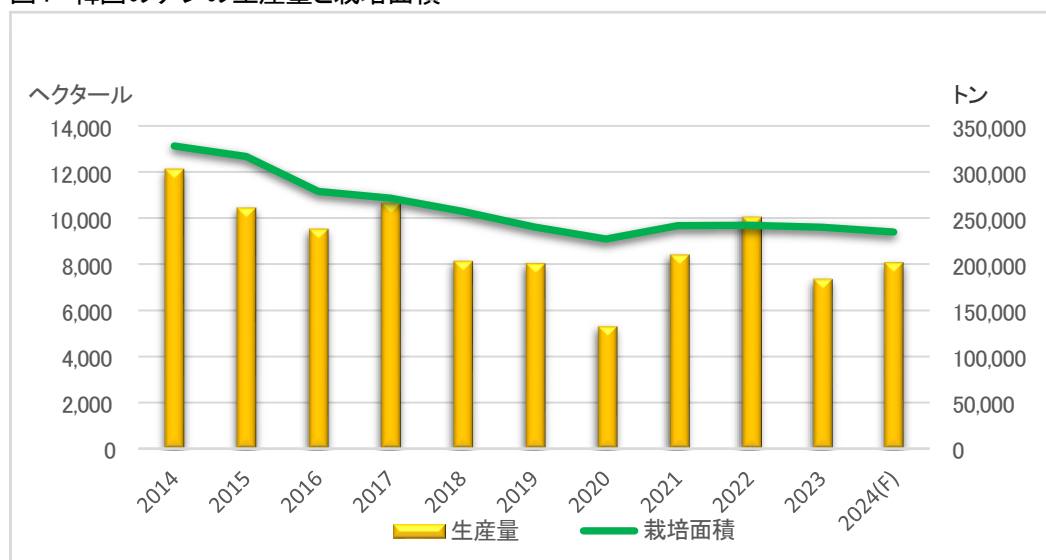
生産

2024/25年度(7月～6月)の韓国のナシの生産量は、2023/24年度の18万4千トンから10.2%増となる20万2千トンと予測される。これは、過去5年間の平均である19万8千トンにかなり近い。ナシの栽培面積は2.5%減少したが、開花期、生育期、収穫期の天候条件が良く、病害虫の発生が少なかったため、収穫量は前年比べて大幅に回復した。特に好天による着果量の増加により、2024/25年度のナシの収量は、2023/24年度の10アール当たり1,913kgに対し、12.7%増の2,150kgと予測される。

2024年のナシ(東洋ナシ)の生育条件は、4月の開花期の遅霜や収穫期の台風等の悪天候のために大きな被害を受けた前年と比べて概ね良好であった。2024年は前年と比べて病害虫の発生は減少したものの、8月と9月に気温が高く降水量が少なかったため果実の生育が妨げられ、日焼けや裂果等の問題につながった。これらの結果、ナシの総生産量は、5年平均の水準に近づくと予想される。

さらに、2024/25年度には、夏の猛暑が長引いたことと記録的な回数の熱帯夜により果実の肥大が制限されたため、全体的に果実のサイズが小さくなると予想される。熱帯夜は、夜間の気温が摂氏25度を超えることを言う。韓国は2024年に熱帯夜の回数が過去最多となり、また熱帯夜の連続記録も最長となって9月上旬まで続いた。

図1 韓国のナシの生産量と栽培面積



資料: 韓国統計庁(KOSIS)、韓国農村経済研究院(KREI)

(F)は予測値

韓国の主要なナシ産地の中で、中部地域(京畿道、忠清道(忠清北道・南道)、尚州市(慶尚北道))では、夏の暑さに続き9月の降雨量が多かったため、裂果の問題が見られた。南部の産地(全羅北道・南道)では、一部の生産者が夏季の高温による深刻な日焼け被害を受けた。これらによる減収のため、当事務所の2024/25年度のナシ生産量の推定値は、韓国の生産者協同組合が9月に発表した予測を下回る。

2023/24年度の韓国のナシ生産量は、2022/23年度の25万1千トンに対し27%の急減となる18万4千トンを記録した。この大幅な減少の主な原因は、2023年4月の開花期の低温による花芽の損傷であり、受粉不良と着果率の低下につながった。その結果、果樹当たりの着果数が減少した。さらに、開花期の悪天候により、形の悪い果実の発生率が高くなり、市場に出せるナシの出荷量がさらに減少した。

韓国のナシ栽培面積は2000年以降徐々に減少しているが、過去5年間は9千ヘクタール以上を維持している。近年、韓国のナシ生産量の変動は、栽培面積の減少のほか、収量に大きな影響を与える天候条件の変化や病虫害の発生等にも影響されている。天候要因の中では、開花期の低温と収穫前の台風がナシの生産に最も大きな影響を与えた。これらの悪天候は、2010年以降、2～3年ごとに繰り返し発生しており、直近では2020年と2023年に発生した。進行する気候変動によってもたらされる課題を解決するため、国内のナシ産業は、園地内の防霜ファンの設置や耐病性品種の開発等の緩和策に投資している。

今後、農業人口の高齢化や産地周辺の都市開発等の要因によりナシの栽培面積の減少が続くため、韓国のナシ生産量は徐々に減少することが予想される。しかし、農業技術の進歩と新しいナシ品種の開発は、収量の増加に貢献し、栽培面積の減少の影響をある程度緩和するのに役立つ可能性がある。新品種の導入と成熟した果樹園での管理方法の改善の組合せにより収量が増加し、栽培面積の減少にもかかわらず、ナシの総生産量を維持している。

栽培面積

2024/25年度の韓国のナシ栽培面積は、2023/24年度の9,607ヘクタールから2.5%減となる9,367ヘクタールと推定される。韓国農村経済研究院(KREI)によると、国内におけるナシ新品種の普及と、火傷病の事後検査期間を経過した園地における新植により、ナシの若い果樹の栽培面積は前年比で約7%増加した。他方、全栽培面積の90%以上を占める成木化したナシの栽培面積は、火傷病の発生、農業人口の高齢化及び都市開発により、約3%減少したと推定される。

2023/24年度については、ナシ栽培面積の地域分布は全羅道(北道・南道)が37%を占め、次いで忠清道(北道・南道)が26%、慶尚道(北道・南道)が20%、江原道/京畿道が18%であった。(原文のまま。表1のデータから算出されるパーセンテージと一致しない。)

表1 韓国の地域別ナシ栽培面積(単位: ヘクタール)

道	2022/23	2023/24	2024/25	増減率(%)
	栽培面積(ha)	栽培面積(ha)	栽培面積(ha)	
京畿道	1,530	1,488	1,458	-2.0
忠清北道	232	187	171	-8.6
忠清南道	1,991	2,127	2,134	0.3
慶尚北道	1,005	986	970	-1.6
慶尚南道	492	475	475	0
全羅南道	2,729	2,710	2,686	-0.9
全羅北道	819	788	717	-9.0
その他	884	846	756	-10.6
合計	9,680	9,607	9,367	-2.5

出典: 韓国統計庁

2023/24年度の韓国の東洋ナシの栽培面積は「新高」品種が支配的であり、総栽培面積の85%を占めた。「ウォンファン」品種が4%を占め、他の品種は合わせて11%であった。「新高」の栽培面積シェアは、2015/16年度と比較して約2%減少した。国産品種を普及させる政府の取組みの結果、「新高」から「シンファ」、「チャンジョ」、「ファサン」等の新品種に移行する農園が次第に増加している。

しかし、栽培面積の大きな変化は見込めない。これは、高齢化が進んでいる多くのナシ生産者が新しい品種の採用に消極的であり、特にナシが主に韓国の2つの主要な伝統的祝日(秋夕:9月または10月及び旧正月:1月または2月)に消費されることから「新高」が依然としてその優れた貯蔵特性により好まれているためである。

2000年以降、韓国のナシの総栽培面積は、農家所得の減少、生産者の高齢化及びナシ産地周辺の都市化により、徐々に減少する傾向にある。2000年から2020年にかけて、栽培面積は年平均5%減少し、2020年以降は9千ヘクタール前後で横ばいである。最近では、国産ナシ品種の普及が古木の減少を補っている。ただし、新品种の急速な拡大はいくつかの課題を提起している。一つには、伝統的な「新高」は、栽培に非常に手間がかかるものの、その優れた味と貯蔵性で知られている。さらに、東洋ナシは日常的に消費する果実ではなく、主に特別な贈答品用の果実と認識されているため、他の果実と比較してナシの販売上の可能性が限られていることが新しい品種の普及を遅らせる可能性がある。

表2 韓国の品種別ナシ栽培面積(単位:ヘクタール)

暦年	新高	ウオンファン	その他	合計
2015	10,544	732	1,388	12,664
2016	9,429	646	1,269	11,164
2017	9,426	525	949	10,861
2018	8,902	484	917	10,303
2019	8,250	461	904	9,615
2020	7,733	436	922	9,091
2021	8,282	445	948	9,675
2021	8,282	445	948	9,675
2022	8,258	438	984	9,680
2023	8,195	432	980	9,607

出典:韓国統計庁

輸出

2024/25年度の韓国の生鮮ナシの輸出量は、主に国内の生産量の増加により、前年の1万9千トンから33%増となる2万5千トンに達すると予測される。生鮮ナシの輸出量は、国内のナシ総生産量の約12~13%を占めると予想される。韓国の生鮮ナシの3つの主要な輸出市場は、米国、台湾、ベトナムであり、これらの国を合わせると生鮮ナシの総輸出量のほぼ90%を占めている。

米国は依然として韓国の生鮮ナシの最大の輸出市場であり、2023/24年度の総輸出量の48%を占めている。この期間に米国に輸出された生鮮ナシは合計9,077トンで、これは主にナシの生産量全体の減少により、前年の輸出量の1万1,161トンに比べて19%の減少となる。台湾は2番目に大きな輸出先としてランクされ、2023/24年度の韓国の台湾向け輸出量は合計5,578トンで、生鮮ナシの総輸出量の30%を占めた。この数字は、前年(1万1,082トン)から50%の大幅な減少を示している。さらに、ベトナムは総輸出量の11%を占め、同期間に2,083トンが出荷され、前年(4,514トン)から54%減少した。

近年、韓国の生鮮ナシの輸出は、国内のナシ生産の変化に応じて変動してきたが、2000年以降は緩やかな増加を示している。2020年には韓国のナシ輸出は、生産量の減少とCOVID-19のパンデミックにより、前年比で大幅に減少した。しかし、2022/23年度の生産量は25万1千トンに達し、輸出量は合計2万9,500トンと大きく増加した。

韓国の生鮮ナシの輸出は、全国の主要産地にある13の統合輸出施設を通じて行われる。韓国のナシ業界によると、生産者の協同組合は、2033年までに年間3万4千トンの生鮮ナシの輸出を組織目標にしている。

現在、毎年平均1万トンの韓国産生鮮ナシが米国に輸出されている。2025年3月から、韓国のナシ輸出業界は、検疫検査のプロセスに追加のオプションを導入し、現在の米国農務省動植物検疫局(APHIS)による事前審査制度と並行して、韓国農林畜産食品部(MAFRA)農林畜産検疫本部(APQA)の韓国人検査官による検査を可能にする。しかし、韓国のナシ業界は、米国での通関手続き中に問題や追加費用が発生する可能性への懸念から、引き続き既存の検疫制度を好むことが予想される。

表4 韓国のナシの生産需給統計

ナシ(生鮮) 販売年度の始まり 韓国	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2022年7月		2023年7月		2024年7月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	9,680	9,680	9,607	9,607	0	9,367
収穫面積(ヘクタール)	0	0	0	0	0	0
結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計(千本)	0	0	0	0	0	0
商業的生産量(トン)	251,093	251,093	200,100	183,300	0	202,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	251,093	251,093	200,100	183,300	0	202,000
輸入量(トン)	0	0	0	0	0	0
総供給量(トン)	251,093	251,093	200,100	183,300	0	202,000
国内消費量(トン)	221,593	221,632	180,100	164,515	0	177,000
輸出量(トン)	29,500	29,461	20,000	18,785	0	25,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	251,093	251,093	200,100	183,300	0	202,000

公式データは [PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

表5 韓国のナシの生産状況^{1/}

年	面積(ha)	生産量(トン)	収量(kg/10 アール)
2016	11,164	238,014	2,132
2017	10,861	265,757	2,447
2018	10,303	203,166	1,972
2019	9,615	200,732	2,088
2020	9,091	132,580	1,458
2021	9,675	210,293	2,174
2022	9,680	251,093	2,594
2023	9,607	183,802	1,913
2024 ^{2/}	9,367	202,000	2,157

1/ 暦年ベース

2/ 韓国農村経済研究院(KRED)による速報値

出典: 韓国統計庁(KOSIS)

表9 韓国の月別ナシ輸出量(単位:トン)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2018	5,110	2,029	2,533	1,411	543	118	17	2,991	2,719	5,532	5,673	4,250
2019	3,119	878	1,062	485	276	27	2	4,658	3,251	5,720	5,873	5,359
2020	2,626	1,525	1,231	567	195	12	28	1,230	4,359	4,393	4,486	2,904
2021	1,109	333	236	35	10	6	3	2,746	3,091	4,946	5,095	4,231
2022	1,787	635	913	352	103	61	21	4,119	2,890	4,786	5,087	5,439
2023	1,450	2,206	2,212	662	397	193	77	2,805	2,988	3,581	4,762	3,110
2024	1,078	293	99	3	1	0	0	3,453	-	-	-	-

出典: 韓国税関及び韓国貿易協会

表10 韓国のナシ輸出(東洋ナシ)

国名: 韓国						
品目: 生鮮ナシ(HS0808.30) 単位:トン、千米ドル						
輸出先	2021/22 (2021年7月~2022年6月)		2022/23 (2022年7月~2023年6月)		2023/24 (2023年7月~2024年6月)	
	輸出量	輸出額	輸出量	輸出額	輸出量	輸出額
米国	9,076	33,666	11,161	38,472	9,077	32,330
台湾	9,798	28,474	11,082	24,277	5,578	16,358
香港	564	1,843	641	1,692	405	1,278
ベトナム	2,905	7,639	4,514	9,240	2,083	5,749
カナダ	344	1,321	508	1,773	604	2,151
その他	1,359	4,230	1,555	4,667	1,038	3,722
総計	24,046	77,173	29,461	80,121	18,785	61,588

出典: 韓国税関及び韓国貿易協会